

坂口安吾を名誉市民へ  
その理念と可能性を考える

# 坂口安吾 フォーラム in 新潟

——地方から文化を創る

2026年7月4日(土) 14:00開演(13:00開場) 参加費:無料(要申込み) 定員:200名(先着順)

新潟日報メディアシップ2階 日報ホール(新潟市中央区万代3-1-1)

※イベント開催時は駐車場が混みます。公共交通機関をご利用ください



最新情報は  
こちらから

## 第1部:基調講演 14:00~

「アイ・ラブ安吾」  
—安吾は現代も生きている—  
荻野 アンナ(作家)

坂口安吾の安吾的文学を軽やかで深い語り口で紐解き、人間の本質と向き合う。さらに、名誉市民顕彰の意義や新たな文化拠点(安吾文学館)の必要性についても理解を深める契機としたい。



画像提供/インクルーブ

## 第2部:パネルディスカッション 15:30~(17:00終了予定)

—坂口安吾を名誉市民へ  
その理念と可能性を考える—

- ・現代文学における安吾の位置付けと可能性を探る
- ・地元新潟における坂口家の影響と安吾の存在
- ・名誉市民顕彰と文化拠点整備(安吾文学館)の意義

ファシリテーター:篠田 昭(元新潟市長)

パネラー:

荻野 アンナ(作家)

七北 数人(作家)

森澤 真理(新潟日報社特別論説編集委員)

主催:坂口安吾を新潟市名誉市民にする会 協力:新潟・市民映画館 シネ・ウインド

後援:新潟市教育委員会、BSN新潟放送、NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、FM新潟77.5

助成:アーツカウンシル新潟((公財)新潟市芸術文化振興財団)「文化芸術活動に関する支援事業」

新潟が生んだ文豪・坂口安吾は、戦後日本の精神的土台を築いた作家として広く評価されている。とりわけ『墮落論』に象徴される「個の自立」「自由と責任」「既成概念の打破」は、社会の価値観が揺らぐ現代においてこそ重要性を増している。一方で、安吾顕彰の拠点である「安吾風の館」は老朽化が深刻化し、寄贈資料の保全や展示が困難となっている。安吾の思想を未来へ継承するためには、名誉市民顕彰と文化拠点整備を柱とした、新たな文化政策の推進が急務である。本フォーラムでは、文化庁が重視する「地方文化」「多様性」「創造性」を基軸に、坂口安吾の思想を手がかりとして、地方から文化を発信する意義を再考するとともに、新潟が果たすべき役割を広く議論する。併せて、「坂口安吾を名誉市民に」という取り組みの理念を共有し、文化行政・市民・研究者が連携した新たな文化創造の契機とすることを目的とする。

# 坂口安吾

1906-1955 生誕120年

## 1906年:新潟に生まれる

新潟市に生まれる。父は政治家で、比較的恵まれた環境だったが、安吾自身は早くから既存の価値観に違和感を持っていた。少年時代はスポーツ万能選手としての一面もあり、その類まれな身体能力は、後の型破りな文学活動を支えるエネルギーの源泉ともなった。

## 学生時代:文学と反骨精神

東洋大学やアテネ・フランセで学ぶ一方、型にはまらない性格で、次第に“反権威的”な姿勢を強めていく。哲学や文学に傾倒し、後の思想の土台が形成されていった。

## 戦前:不遇の作家時代

作家として活動を始めるものの、当初は評価されず、生活は苦しかった。世間的には無名に近い存在で、模索の時期が続く。

## 戦後:一気に脚光を浴びる

1945年の敗戦後に発表した『墮落論』(1946年4月)が大きな反響を呼ぶ。一躍、時代の寵児に。

- 『墮落せよ』という挑発的な主張
- 戦後の価値観の崩壊と強く共鳴

## 無頼派として活躍

安吾は、いわゆる無頼派の代表的存在となった。

- 人間の弱さや欲望を肯定
- 型破りで自由な作風
- 既成道徳への強い批判

代表作には『桜の森の満開の下』などがある。

## 晩年:人気と孤独の果てに

人気作家となる一方で、体調不良や過労、不規則な生活も重なり、心身ともに不安定な時期を過ごす。しかし、1953年に三千代夫人との間に長男・綱男氏が生まれ、最晩年の2年間はようやく穏やかな日々が訪れた。

## 1955年:桐生市で死去(享年49)

比較的若くして亡くなるが、その思想と作品は現代まで大きな影響を残した。

撮影/林忠彦

## 坂口安吾フォーラム in 新潟

パネルディスカッション出演者



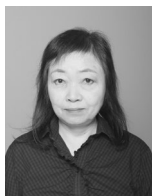
篠田 昭(元新潟市長)  
ファシリテーター



萩野 アンナ(作家)



七北 数人(作家)



森澤 真理  
(新潟日報社特別論説  
編集委員)

申込方法:QRコードより受付フォームから申込。または下記項目にご記載のうえ、  
FAX (025-243-5603)にてお申込ください。

お問い合わせ:坂口安吾を新潟市名誉市民にする会  
090-5799-1711(事務局長 斎藤和利)

お申込は  
こちらから



FAX申込書 025-243-5603

お名前

ご住所

お電話

メール

○ご記入いただいた個人情報は、本イベントの運営管理の目的にのみ利用いたします。